

同窓会だより

信州大学医学部保健学科同窓会事務局
School of Health Sciences, Shinshu University
第20号 2022年10月



—目次—

川上由行先生 同窓会会長の挨拶	2
中村宗一郎先生 学長のご挨拶	3
池上俊彦先生 同窓会名誉会長のご挨拶	4
新入教員のご挨拶	5
活動支援報告	7
保健学科4専攻「卒業生を交えての懇談会」開催	12
退職の挨拶	13
卒業生の声	15
総会記録	17
令和3年度事業計画	18
令和4年度事業計画	19
同窓会役員・編集後記	20

2022
第20号

保健学科がそして保健学科同窓会が20歳になりました !!

信州大学医学部保健学科同窓会会長 川上 由行
(信州大学名誉教授/医学部特任教授(研究))

我が母校医学部保健学科が誕生し、また保健学科同窓会が設立されて、今年2022年でちょうど20年です。2003年4月に保健学科の第一期生を迎えて保健学科同窓会が発足し、あっという間に節目の20周年を迎えました。この20年間に、保健学科、大学院保健学専攻・保健学分野は、医学医療の領域へ有能な人材を着実に輩出してきました。

保健学科の発足が認可された2002年10月に「保健学科設置記念式典・講演会」を、保健学科第一期生を迎えた2003年7月に「同窓会設立記念式典・講演会」、大学院修士課程が発足した2007年に「大学院修士課程設置記念式典・講演会」、博士課程が設置された2009年に「大学院博士前期課程・後期課程設置記念式典・講演会」、後期課程修了者から最初の「保健学博士」が誕生した創立10年目の2012年に「保健学科10周年及び大学院保健学専攻完成記念式典・講演会」を、そして地域保健推進センター竣工の2014年には「医学部地域保健推進センター設立記念式典・講演会」を開催するなど、母校保健学科そして保健学科同窓会は、節目ごとに記念の行事を催してきました。

当然のことながら、今年2022年は、20歳になった保健学科、そして保健学科同窓会の記念イベントの開催を視野に入れてきました。一年延期で開催した東京オリンピック・パラリンピックを念頭に、新型コロナウイルス感染の動向を注視してきました。東京五輪がもたらした感染の第五波も秋の終盤にはすっかり影を潜めていましたが、昨年末から第六波が興りました。同窓会名誉会長の池上俊彦学科長ともご相談しました。東京五輪のように「一年遅れの2023年に開催する」案と、思い切って「5年後の2027年に25周年記念行事として開催する」案の二案に絞り、最終的には後者の「25周年記念行事の開催」案を選択することにしました。5年後2027年こそは、感染の脅威が完全払拭されている状況で同窓生の皆様と「保健学科および保健学科同窓会設立25周年記念式典・講演会」を開催したいと思います。

20年の年月はあっという間でしたが、この間に母校は、優秀な人材育成と同時に、専攻・領域・分野の研究・教育の充実・高度化の推進はもとより、地域に密着しながら、地域社会への研究・技術支援等も積極的に推進する活動を展開してきております。

同窓会では、今年も幹事会・理事会はZoom会議になりました。また、例年のように6月第4土曜日に開催した市民開放講演会もZoom配信となりましたが、視聴者が200名を超える大盛況でした。次年度の対面での開催を祈りつつ、Zoomとの併用による講演会のハイブリッド運営も視野に入りたいと考えています。

2027年の25周年記念イベント開催へ向け、母校の益々の発展を確信しながら、我が保健学科同窓会は、20周年を迎えて更に大きく飛躍しようとしている母校と共にしっかり歩んでいきます。



信州大学 学長 中村 宗一郎

信州大学医学部保健学科同窓会の皆さまには、毎日頃より一方ならぬご支援、ご協力を頂いており、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

さて早速ですが、大学の使命は、教育、研究および社会貢献です。大学はこれまで高い教養と高度で専門的な知識を持った知識人、高度専門職人材の育成を担ってまいりました。また、その過程では、真理を深く探究し、新たな知見を積極的に発掘・創造してきました。また、大学は教育と研究にとどまらず、それらの「成果を広く社会に提供」し「社会の発展に寄与」することも重要な役割であるということは論を俟たないところです。そのような中で2019年、文部科学省は「国立大学改革方針」を公表し、(1)高度で良質な人材育成拠点としての国立大学、(2)世界の「知」をリードし社会にインパクトを生み出すイノベーションハブとしての国立大学、(3)世界・社会との高度で多様な頭脳循環の中心にある国立大学、(4)社会や地域を支え・社会や地域から支えられる国立大学、(5)強靱なガバナンスに支えられた国立大学、(6)多様かつ柔軟に連携しネットワーク化する国立大学、(7)国立大学の適正な規模、の7つの指針を示しました。これらの課題を一つ一つ解決していくためには、大学教員と職員とが協働して運営にあたる「教職協働」が重要となります。私は、この考え方を更に一步前に進め、大学の第一義的な当事者である学生を加えた「教職学協働」による大学運営（経営）を実現したいと考えています。この理念を定着、普及すべく、対話を中心にじっくりと時間をかけて、組織の機能開発（Organization Development）に取り組めます。教職学協働によって、信州大学アイデンティティを確たるものとし、信州大学を真に持続可能な大学にしていきたい、そう強く念じています。

本年度から第4期中期目標・中期計画期間が始まりました。これから6年間、『信州大学改革実行プラン inGEAR（インギア）』に基づき、信州大学のブランディングを確たるものにしてまいります。inGEARとは、“inGenious, Enterprising and Actionable Regional revitalization（独創的、進取的かつ能動的な地方創生）”

を原型とした造語であり、この理念のもと、地域社会と大学を連続的に一体化し、人材の繋がり（ステークホルダーエンゲージメント）を高め、さらには教員・職員・学生との関係がより身近になって、互い

に高めあうことのできる環境創り、すなわち教職学協働を力強く進めてまいります。信州大学が、“地域のイノベーションハブとしてこの地域の振興を本気で担う大学”として広く社会に認知される日が一日でも早く訪れるよう、これまでよりギアを一段上げ、粉骨碎身の覚悟で臨む所存でございます。

今回は、このような機会を与えていただき、ありがとうございました。保健学科同窓会の皆さまのますますのご発展とご健勝を祈念して結びの言葉とさせていただきます。今後とも引き続きご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



「同窓会だより」によせて

信州大学医学部保健学科同総会名誉会長 池上 俊彦
(信州大学医学部 保健学科長／看護学専攻 成人・老年看護学領域 教授)

信州大学医学部保健学科同窓会の会員の皆様方には平素より保健学科の教育、研究および学科運営に多大なるご理解とご支援を賜り心から御礼申し上げます。

この夏は猛暑が続き、一方では豪雨が頻発し、さらに新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっておりますが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

2019年12月に中国の武漢で最初の感染患者が報告された新型コロナウイルス感染症がこれほど長きに亘って、これほど大きな社会的影響を与え続けるとは正直想像しておりませんでした。昨年はSARS-COV 2デルタ株が猛威を振るったこともあり、東日本大震災以来となる平均寿命の対前年比短縮が見られたと報道がありました。今年はより感染力が強力なオミクロン株へと置き換わり、第7波が到来し新規感染者数は過去最多となり、保健学科でも学生・教職員の感染者、濃厚接触者が増加しています。

授業は新年度早々には遠隔で行いましたが、重症者などが少ないことから5月以降は対面で実施されるものが多く、許可が得られた病院、施設では臨地実習も行われましたが、高齢者など感染リスクの高い利用者が多い施設などでの実習は制限が続いています。

7月9日には3年ぶりで対面による保健学科オープンキャンパスを行いました。広報委員会で議論して、感染予防策をしっかりと講じた上で、例年より人数を縮小し、専攻毎に人と人との直接接触の無いプログラムを選んだ上での開催となりました。当日は猛暑の中でしたが、参加者には同窓会の皆様の御奉仕によるペットボトルのお茶を配布させていただき、幸い熱中症や感染症などで体調を崩した方も無く、好評のうちに終えることができました。

さて、本年度からは第4期中期目標期間の6年間が始まりました。少子高齢化の影響がより明らかになり、ポストコロナという新たな時代が始まる中での6年間です。第4期の初年度にあたり、保健学科

では教育分野では、文部科学省の補正予算によるウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業に保健学科の事業が採択され、DXの推進や遠隔看護などを実施するとともに、

本学部局別で最高保有率となった科研費を用いた独創的な研究を推進していきます。さらにコロナ禍ではありますが、地域課題の解決などに向けた地域支援活動を可能なところで活発化させていきたいと思っております。同窓会の皆様方には、一層のご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

末筆ではございますが、同窓会会員の皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。



新入教員のご挨拶

自己紹介

浅野 美礼

(看護学専攻 基礎看護学領域)

浅野美礼（あさのよしひろ）と申します。令和3年10月に看護学専攻基礎看護学領域に着任いたしました。どうぞよろしく申し上げます。



大学を卒業したあと看護師として4年働いたのち、恩師の引きがあって滋賀医科大学の助手になり、大学院修了後は筑波大学の教員として18年あまり過ごしました。

大学時代は、現在の学生たちには申し訳ありませんが、古き良き時代でもあり、ほとんど大学に行かずにボートを漕いでいました。皆様の多くが経験されたと思いますが、体育会運動部は新生の勧誘に全力を傾けます。ボート競技はマイナーですからなおさらです。しかし、経験してみればおもしろいと感じてくれる人もいます。水面が驚くほどのスピードで流れていく爽快感、全員のオールが完全に一致した瞬間だけ味わえる水面からの跳躍感...嫌々入部したかもしれなかったその新入部員はいつのまにか"沼"にはまって成長し、3年後に英雄になる。それが部の歴史を作ってきました。将来の英雄がどこにいるかわからないから、熱心に勧誘します。

看護学専攻の学生の場合、幸いにも最初から看護師・保健師・助産師になりたいという動機づけはあるのだと思われます。しかも優秀な学生たちが集まっていることと楽しみにしております。恵まれた環境を大切にしながら、彼女たち・彼たちがみな、将来の職場のエースとなる優秀な看護師になる手助けができるよう、尽力してまいりたいと思っております。

自己紹介

五十嵐 尚子

(看護学専攻 成人・老年看護学領域)

令和3年4月より老年看護学の助教として着任いたしました、五十嵐尚子と申します。生まれは福島県福島市、大学進学をきっかけに宮城県仙台市に移り、14年仙台で過ごしました。人生で初めて



東北の地を離れ、長野県に居住することとなりました。長野県の文化や地理など慣れないことばかりですが、山に囲まれた土地が地元の福島市と通じるものがありどこか懐かしさも感じている日々です。

私は、東北大学卒業後、3年間東北大学病院の消化器内科で勤務した後退職し、東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野にて修士号・博士号を取得いたしました。消化器内科では、主に内視鏡による治療を行った患者や潰瘍性大腸炎の患者への看護といった、プチ急性期から慢性期の幅広い状態の患者への看護を行ってまいりました。

大学院での研究は終末期のがん患者と遺族を対象として、遺族調査やインタビュー調査を中心に行ってきました。今後は長寿県である長野県をフィールドにして終末期のQOLの向上を目指した更なる研究を実施できたらと思います。また、1年間助手として勤務いたしましたでしたが、教員経験はほとんどありませんので、withコロナ時代となった新しい社会に適した看護を提供できる看護師の育成をできるように私自身も研鑽していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくご挨拶申し上げます。

自己紹介

中山 佳子

(看護学専攻 小児・母性看護学領域)

令和4年4月に看護学専攻小児・母性看護学領域の教授として着任いたしました、中山佳子（なかやま よしこ）と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。



私は、長野県立上田高等学校を卒業後、信州大学医学部医学科に進学し、平成4年に信州大学医学部小児医学教室に入局しました。小児科医として県内の関連病院で勤務し、平成22年から信州大学医学部小児医学教室に戻り、現在に至ります。

私の前任である市川元基先生が、およそ20年に渡り保健学科の学生さんの教育に携われ、同時に小児神経専門医として診療や研究にあたられるお姿を、敬意の念を持ち拝見しておりました。市川先生の教育者としての姿勢を受け継ぎ、精一杯務める所存です。

さて、2021年わが国の合計特殊出生率は1.30、出生数は81万人に減少し、少子高齢化に歯止めがかかりません。このような時代であるからこそ、小児医療の魅力や子どもを育てることの楽しさを、保健学科の学生さんにしっかり伝えたいと思います。

また、自身の小児消化器病の専門医としての経験を生かし、信州大学発といえる教育や研究を進展させ、保健学系医療者の育成に取り組んでまいります。小児期に消化器内視鏡検査を必要とする希少難治性疾患におけるチーム医療と移行医療支援、小児のHelicobacter pylori感染症、フィジカル・アセスメントとしての便秘エコーなどが当面の研究課題です。

同窓会の会員の皆様のご支援とご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

自己紹介

牟田 理恵子

(看護学専攻 成人・老年看護学領域)

はじめまして。この4月から成人看護学の准教授として着任いたしました牟田理恵子と申します。出身は千葉県佐倉市です。蘭学の先進地、西洋医学の街として栄えたところでは、(が、高校の大先輩



であるミスタージャイアンツ、長嶋茂雄さんの出身地としての方が有名かもしれません。)長野県には、学生時代に林間学校などで訪れたきり、気づけば数十年の時間が流れておりましたが、昨年、諏訪大社の御柱祭に行く計画を立てていましたところ、なんとも不思議なご縁があって信州大学に赴任することが決まりました。また昨年の初詣は、自宅近くの駒木のお諏訪さま@千葉県流山市にお参りしており、お諏訪様に導かれたのかな??と思っております。

看護師への道は、東京慈恵会医科大学から始まり、卒業後、外科病棟、緩和ケア病棟で6年程看護師として勤務いたしました。オーストラリアで羽を伸ばしたのち、30代になり、これからどう生きていこうかなあと考えていた時、友人に臨地実習での指導を頼まれ、断り切れずに受けたことから、これまた様々なご縁と恩師のお導きで、いつの間にか教育研究職が私の本職となっております。

大学院は、東京大学で修士号(保健学)、筑波大学で博士号(看護科学)を取得し、緩和ケア・がん看護を専門としております。特に終末期患者さんの家族支援について、学生の時から関心があり、そのよりよい看護について探求してきました。臨床現場が好きなので、本学の新カリキュラム(2025年)から緩和ケア病棟での実習も選択実習として組み込まれていることが大変嬉しく、今からとても楽しみにしております。

看護学は、様々な人と関わり向き合う中で、多くの学びと自己成長を与えてくれるとても奥深い学問です。Freshな感性を持った学生さんから刺激を受けながら、共に学び成長していけたらと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

活動支援報告

新入生交流会

本年も妙高高原新入生合宿研修は感染防止の観点から中止となり、専攻毎に交流会を実施しました。新入生は、まだ肌寒い4月4日から入学式、新入生ガイダンス、履修登録と慌ただしい日々を送っていました。また松本での新生活を始めた学生も多く、緊張した様子でした。そうした中で、4月16日看護学専攻と作業療法学専攻が、4月18日検査技術科学専攻が、5月8日理学療法学専攻が行いました。看護学専攻は学内のウォークラリー、在校生との交流、ゲーム大会で親睦をはかりました。学生数の最も多い看護学の参加者は1年生64名、2年生6名、3年生6名、教員25名でした。作業療法学専攻は新入生と教員の松本市内名所巡りグループツアーを、検査技術科学専攻は自己紹介を含めたゲームやグループごと先輩との交流をはかりました。理学療法学専攻は第2体育館にて新入生と2～4学年有志によるレクリエーションを行いました。いずれも入学からの緊張を解きほぐし新たな大学生生活を送るためのきっかけになったようです。



▲看護学専攻



▲検査技術科学専攻



▲理学療法学専攻



▲作業療法学専攻

2021年度同窓会からの補助による実習設備の充実

基礎看護学領域・成人看護学領域 共同購入

2021年度の補助金は看護学専攻で以下の通り活用させていただきました。

1) マニュアルストレッチャー

移乗・移送等の演習を行うために欠かせないものですが、老朽化しているものを工夫しながら使用しても台数が不足しており演習に支障をきたしていました。今回購入したことで台数が増え、行える演習の幅が広がりました。

2) チェストフトオフィスブラック、ハイスタンド

シミュレーターを用いた教育を取り入れています。ハイスタンドにSCENARIO（シミュレーター）の生体情報モニターを置き、生体情報を映し出すことで状況に応じたアセスメントをする演習を行いやすい環境になりました。また、付属品などをチェストオフィスに入れることで、円滑に演習が行えるようになりました。

1



2



基礎看護学領域 購入

1) ナーシングアン

ナーシングアン（シミュレータ）は血圧や脈拍、呼吸音の聴取などのフィジカルアセスメントの演習に使用しています。また、吸引などの学生同士では行えない侵襲のある看護技術の練習にも使用しています。

2) サカモト分娩介助トレーナー Dual

メーカー：坂本モデル

使用用途：一連の分娩介助をリアルにトレーニング出来ます。助産師学生が日々、練習に使用しています。

1



1



2



小児看護学

小児発達健康論や小児発達看護方法論、各論実習前の演習などで活躍しています。

乳児看護実習モデルLM-052



精神看護学

幻聴体験をしながら看護師役とコミュニケーションをとる演習を行うために、耳を塞がない骨伝導ヘッドホンを3台購入しました。



特別講演

令和4年6月25日(土)

新型コロナウイルス感染症流行の第6波が収束してきたところでしたが、昨年に引き続き本年度も対面による市民公開講座の実施を中止いたしました。

代わりに6月25日(土) Web会議システムにより、「悲しみとともにどう生きるか」をテーマに、ミシュカの森代表・上智大学グリーンケア研究所非常勤講師の入江杏先生によるオンライン講演を行いました。学生・教職員・一般市民あわせて159名が視聴し、活発な質疑が行われました。

信州大学医学部保健学科・保健学科同窓会主催
市民公開講演会

悲しみとともにどう生きるか

講師
入江 杏 先生
「ミシュカの森」主宰
上智大学グリーンケア研究所非常勤講師
世田谷区グリーンサポート検討委員

日時：令和4年6月25日(土)
13時00分～15時00分
(12時40分から参加可)

場所：オンラインで配信
(ZOOMミーティング)

※新型コロナウイルス感染症が蔓延していることを鑑み、令和4年度はオンラインでの実施といたします。
※参加費無料・申込必要
(保健学科のホームページに申込フォームを掲載予定)

講師紹介

東京都生まれ。国際基督教大学卒。犯罪被害の悲しみ・苦しみと向き合い、尊厳の中で「生き直し」をした体験から、「悲しみを生きる力」をテーマとして、行政・学校・企業などで講演・勉強会を開催。「ミシュカの森」の活動を核に、悲しみの発信から再生を模索する人たちのネットワークづくりに努める。

著書：
『悲しみを生きる力に～被害者遺族からあなたへ』（岩波ジュニア新書）
『ずっと つながってるよ こぐまのミシュカのおはなし』（絵本・くもん出版）
『悲しみとともにどう生きるか』（編著・集英社新書）（2020年11月）
『わたしからはじまる一悲しみを物語るということ』（小学館）（2022年6月）

問合せ先：信州大学医学部学務第2係（Tel：0263-37-2357）
玉井真理子研究室（e-mail：pomottenak@yahoo.co.jp）

奥村教授・藤本教授 退職最終講義

令和4年3月3日(木)

令和4年3月末をもって、看護学専攻 市川元基教授が退職されました。第218回医学セミナーとして3月3日(木)に市川先生最終講義「信州大学の点検評価と大学院の設置」が、地域保健推進センター 3階多目的講義室にて行われました。当日はZoomによるオンライン同時配信も行われ、学内外の関係者の方々のご参加をいただきました。

的講義室にて行われました。当日はZoomによるオンライン同時配信も行われ、学内外の関係者の方々のご参加をいただきました。



▲市川教授 退職最終講義

卒業祝賀会・優秀学生表彰

令和4年3月21日(月)

感染症対策を設け、令和4年3月21日(月)キッセイ文化ホールにて信州大学松本地区卒業式が行われました。

保健学科では同日午後保健学科中校舎二階大会議室にて、各専攻の成績優秀学生4名と大学院1名の表彰

を、その後専攻別に4会場にて卒業証書の授与を行いました。表彰式には各専攻主任が列席しました。池上学科長および教員と各専攻・大学院の成績優秀学生のみなさんです。



▲写真前列右側から 作業療法学専攻・船津琴美さん 理学療法学専攻・武内泉樹さん
検査技術科学専攻・百瀬翠さん 看護学専攻・杉谷紀香さん 博士課程・林航さん

大学院修了者名簿

令和3年度の大学院修了者のうち医学系専攻保健学分野(博士課程)修了者は3名で、学位論文は以下の通りでした。

・木下 愛未 さん

Effectiveness of an Aggression Management Training Program in Japan: A Quasi-Experimental Study

(日本における攻撃性マネジメント研修プログラムの効果：準実験研究)

・林 航 さん

Genomic characterisation and epidemiology of nosocomial *Serratia marcescens* isolates resistant to ceftazidime and their plasmids mediating rare blaTEM-61

(医療関連感染事例由来セフトンジム耐性 *Serratia*

*marcescens*の全ゲノム解析によるblaTEM-61保有プラスミド伝播事象の解明)

・山浦 洵 さん

Altered Serum Lysophosphatidylethanolamine Species Profile in Patients with Autoimmune Pancreatitis

(自己免疫性膵炎患者における、血清リゾホスファチジルエタノールアミン分子種組成)

保健学科4専攻「卒業生を交えての懇談会」開催

令和3年9月21日（火）に検査技術科学専攻が、10月13日（水）に他3専攻が「卒業生を交えての懇談会」を行いました。看護学専攻は対面で、他3専攻はオンラインにて保健学科卒業生を招き、専門職として得た多様な社会経験を伝えてもらいました。在学生にとって、先輩方の学部時代の振り返りや卒業後の様々な話題は、今後の方針を考える上で大変刺激になったことと思います。

卒業生の皆さん、お忙しい中ご協力いただき、本当にありがとうございました。

看護学専攻

- 佐藤優香さん 平成23年度卒業（信州大学大学院医学系研究科）
- 中村しずかさん 平成25年度卒業（信州大学医学部附属病院）
- 清野綾香さん 平成27年度卒業（長野県立こども病院）
- 渡邊あかりさん 平成27年度卒業（中野市役所）

検査技術学専攻

- 小林純さん 平成22年度卒業（長野県立こども病院）
- 鈴木咲樹さん 平成27年度卒業（飯田市立病院）
- 武井佑佳さん 平成29年度卒業（JA長野厚生連長野松代総合病院）

理学療法学専攻

- 中山貴幸さん 平成20年度卒業（株式会社エスパルス）
- 中條祥帆さん 平成23年度卒業（松本市立病院）
- 岡野怜己さん 平成20年度卒業（医療創成大学）

作業療法学専攻

- 野口智子さん 平成22年度卒業（東京大学医学部附属病院）
- 中島優介さん 平成24年度卒業（信濃医療福祉センター）
- 竹中愛実さん 平成27年度卒業（メンタルサポートそよかぜ病院）

退職にあたって

看護学専攻 小児・母性看護学領域 市川 元基

保健学科・保健学専攻同窓会の皆様、2022年3月31日で定年退職しました医学部保健学科看護学専攻小児看護学の市川元基です。私は1982年3月に信州大学医学部医学科を卒業して小児科医になり、2001年4月に当時の信州大学医療技術短期大学部看護学科に赴任いたしました。2002年10月に医療技術短期大学部が医学部保健学科に改組され、21年間主に看護学専攻を中心に、また検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻の教育にも関わらせていただき、小児の成長発達、小児の病気の病態生理に関して、学生さんたちと一緒に学んでまいりました。2005年4月から2011年3月までの6年間は保健学科長として保健学科の運営、大学院医学系研究科保健学専攻修士課程、保健学専攻博士後期課程の立ち上げに、教職員の皆様とともに関わらせていただきました。2007年4月の修士課程の発足時には諏訪中央病院名誉院長の鎌田實先生をお呼びして盛大な記念講演会を同窓会の皆様のおかげで開催することができました。また2009年4月の博士後期課程発足時は当時東京大学大学院教育学研究科長の武藤芳照先生をお迎えして記念講演会を開催させていただきました。どちらの記念講演会も両先生の印象的なお話を拝聴することができ、特に武藤芳照先生の講演会では当時の山沢清人学長をはじめとして、多くの理事・副学長にも参加していただいたこと

を覚えております。大学院修士課程・博士後期課程の設置も記念講演会の開催も保健学科同窓会の皆様のご協力がなければ不可能であり、あらためて感謝いたしております。大学は学部だけでは一人前ではありません。学部卒業生が医療の現場で感じた疑問を研究としてまとめ上げる大学院の修士・博士課程があつて初めて一人前です。2007年に第1回の学部生が卒業生して今回で16回目の卒業生、2009年に第1回の修士課程修了性が出て今回で14回目の修了生、2012年に第1回の博士課程修了生が出て今回で11回目の修了生、多くの卒業生、修了生がそれぞれの立場で頑張っていらっしゃると思います。卒業生・修了生が信州大学で学んだことを糧として医療の現場や社会でご活躍されていることが私たち大学教員の一番の励みになります。長い間お世話になり本当にありがとうございました。今後の保健学科・保健学専攻同窓会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

保健学科同窓会だより 退職の挨拶

看護学専攻 小児・母性看護学領域 豊岡 望穂子

同窓生および父兄の皆様、教職員の皆様、大変お世話になっております。看護学専攻の豊岡望穂子です。この度、一身上の都合により退職させていただくこととなりました。2019年に信州大学に着任しましてから3年間、皆様には大変お世話になりました。

生まれ育った富山の地を離れ、単身、誰も知った方いない信州の地に飛び込んでまいりましたが、着任当初から皆様はとてもやさしく迎え入れてくださり、心地よい居場所、やりがいのあるお仕事、温かいお言葉の数々を与えてくださいました。

着任して2年目に差し掛かるところで世界的なコロナ禍に入りました。今なお感染症やその後遺症に苦しんでいる方にはお見舞いを申し上げます。また、医療者の皆様、エッセンシャルワーカーの皆様のお力と善意に大変感謝申し上げます。感染状況の落ち着く日は少なく、感染症との闘い、新しい生活への適応のために、医療者、教育者として取り組ませていただいた2年間でした。また、2020年に入学された学生さんたちの担任をさせていただきましたが、入学当初は登校することもできず、不安でいっぱいの学生生活のスタートでした。しかし、学生さん同士で支えあい、SNSやオンラインツールを駆使して遅しく乗り越えておられた姿は、大変頼もしく、励まされることもありました。皆さんの今後の活躍を楽しみにしております。

ます。

信州大学に来て2年目頃から、私は助産師として、臨床協力という形で附属病院の助産師外来にも出させていただいておりました。妊婦健診や産後健診にいらっしゃるお母さま方の新しい命への希望の声を聴いては、共に期待を膨らませ、不安の声を聴いては共に課題解決に向けて案を出し合う時間はとても好きでした。またスタッフの皆様からも多くを学ばせていただき、助産師として成長できたと感じています。当初は教職に就きますと臨床から離れてしまうのではないかと考えていたところもありましたが、杞憂に終わり、今では大変貴重な経験を積ませていただけたことに嬉しさと感謝の気持ちでいっぱいです。ご指導いただきました先生方、スタッフの皆様、本当にありがとうございました。

2022年4月からは特任助教として在任中に手掛けておりました研究を継続させていただけることとなりました。また、信州大学で経験させていただいたことを活かし、今後も助産師として、多くの女性、母親と子、ご家族に様々な形で貢献できればと思っております。

最後になりましたが、3年間、誠にありがとうございました。この場を借りて厚く御礼を申し上げますとともに、今後も引き続きご指導、ご鞭撻のほどをよろしく願い申し上げます。

卒業生の声

「近況報告」

谷本 桂／医療短期大学部 看護学科 15 回生

卒業してから30年も経ちました。いろんな経験をしてきました。たくさんの方々にお世話になりました。この信州大学医学部保健学科看護学専攻にもお世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

現在私は広島県に移住し、公立病院の外来で看護師をしています。縁あって、放射線治療室での看護に携わっています。勤務先の放射線治療室では主にリニアックでの治療が行われています。がん放射線治療看護認定看護師、放射線治療技師、放射線治療医とともに患者さんに寄り添い、有害事象の予防に努めるとともに出現時は早期に対処して治療が完遂されることを目指して日々奮闘しています。放射線治療は、手術、化学療法と並ぶがんの治療法の一つですが、実際にどのような治療が行われているのか医療従事者に十分認識されていないのが奇妙なところです。私も、携わることがなければスルーしていたと思います。医療の幅や奥行きを日々感じながら、外来勤務をしている今日この頃です。

話は変わりますが、猫を1匹飼っています。キジトラの雌猫です。動物愛護センターから我が家にやってきました。外には出していない完璧な家猫です。臆病で人見知りが半端なく、ドアホンが鳴ったらどこかに隠れ、家族以外が家に上がり込んできようものならパニックを起こしてしまいます。食いしん坊で餌鉢に入



れたキャットフードは残さず食べる猫なのに、数年前にどういふわけか食べなくなって血尿を出したことがあり、動物病院に連れていきました。膀胱に大きな石ができていて即入院となり、点滴治療を受けました。回復したのはよかったのですがスタッフを威嚇するようになり、お恥ずかしいことに強制退院となりました。外来通院で点滴治療をしばらく続けて、現在は血尿なく元気に過ごしています。人間も猫も、元気が一番ですね。

とりとめのない話でしたが、以上、近況報告とさせていただきます。

「10年目の雑感」

小林 純／検査技術科学専攻 7 回生



私は現在、長野県立こども病院に勤務し、臨床検査技師になって10年目を迎えています。また、学生時代には全く想像していなかった大学院へ進学し、職場の方々のご理解・ご協力のもと社会人大学院生として、多くの方々にご指導いただき

ながら研究生活を送っています。10年目ともなると仕事での立ち位置も変化し、迅速な判断力、決断力、発言力などなど自分に全く備わっていないものを求められる中で（自分が悪いのですが）日々悩んだり沈んだりすることもあります。おそらく同じような立場にある同級生の皆さんはいかがでしょうか。このご時世もあり、しばらく疎遠になってしまっていますが、また以前のように定期的に集まって近況報告をしつつ、実のない話で盛り上がりたいですね。

大学を卒業してからの10年間で、私生活でも大きな変化がありました。運命の人と巡り会い、結婚して子供が生まれ、現在は夢のマイホームに家族3人で暮らしています。最近では結婚式に呼んでいただく機会がまた増えてきたのですが、両親に感謝の想いを伝える花嫁の姿を見ると、まだ20年も先のことを考えて感慨

深いものがあり、自分の娘にも自然と「ありがとう」と言ってもらえる父親でありたいとしみじみ思います。

仕事と研究に全力で取り組むことはもちろんですが、家族と過ごす時間も大切に、ゆくゆくは妻と2人ゆっくと老後を過ごすことを夢見て、この先のハードな臨床検査技師人生を歩んでいきたいと思えます。

「近況をご報告します」



**山本 和雅／作業療法
専攻 4 回生**

信州大学を卒業し、社会人13年目になりました。卒業後から現在まで福井赤十字病院で働いています。当院は急性期病院ですが、緩和ケア病棟もあり、急性期から

終末期まで様々な患者様が作業療法の対象です。作業療法士は13名おり、4名の認定作業療法士がいます。対象疾患は、脳卒中、神経疾患、運動器疾患、心疾患、呼吸器疾患、がん、内科疾患、消化器疾患など多岐にわたります。また昨年からは新型コロナウイルス患者に対しても介入を開始しました。作業療法士としても、社会人としても未熟でしたが、先輩方に熱心に指導いただき、ここまで現職を続けてこられました。2018年には認定作業療法士を取得し、現職者共通・選択研修などの講師を務めさせていただきました。他にも臨床実習指導者、骨粗鬆症マネージャー、A-ONE認定評価者、QCサークル指導士の資格も取得しました。また福井県士会の教育部・災害対策部の部員も務めています。

私生活では、2015年に結婚し、新婚旅行はニュージーランドに行きました。その後、男の子と女の子の双子が生まれ、私の両親と同居して生活しています。子ども達のパワーに圧倒され、平日も休日も疲労困憊です。

作業療法士としての原点は、信州大学での先生方や同級生との思い出にあります。臨床実習や国家試験など大変なときに、皆様に助けていただきました。今でもふと思い出すことがあります。研修会や学会で方々にお会いできると非常にうれしいですし、元気をもら

います。コロナ禍で直接お会いすることができないですが、いつの日かみなさんに会える日を楽しみにしています。

「キャリアについて考えた1年間」



**堀内 祐希／理学療法
学専攻 15 回生**

私は信州大学を卒業してストレートで同専攻の大学院に進学し、今年度で修士課程2年生となりました。現在、運動制御・ヒト神経生理学研究室にて、姿勢制御機能を

向上させるための新たなトレーニング方法の開発を目的として研究を行っています。

大学院入学後は研究活動と並行して、学部生の頃漠然としか考えられていなかったキャリアについてじっくりと考えるようにしていました。もともと大学院進学を決意したのは、臨床で埋もれない理学療法士になりたいと思ったことがきっかけでした。しかしこの1年間で、理学療法士は臨床に限らずさまざまな領域で活躍すべきだと考えるようになり、一般企業就職も視野に入れて就職活動を行ってきました。そして現在はある靴のメーカーから内定をいただいております。大学院卒業後はその企業への入社を予定しています。その企業は、特にヘルスケア分野をターゲットとした靴を開発しており、理学療法士の私は解剖学等の専門知識を持つ人材として靴の開発に関わることが期待されています。学部生の頃に考えていた病院就職という進路ではないものの、企業でも理学療法士としての知識が求められるということで非常に責任感のある仕事だと感じています。大学や大学院で培った知識や経験を生かして企業で活躍できる人材となれるよう、残りの学生生活も自己研鑽を重ねていきたいと思えます。

総会記録

保健学科同窓会総会の中止

保健学科同窓会では令和4年6月25日（土）に今年度の総会・市民開放講演会・会員親睦ティーパーティ等について開催の可能性を模索してきました。

メール審議やOn-Line会議が主流の学内会議等に準じ、幹事会もZoomによる遠隔審議をしました。そして、このような状況を鑑みて、幹事会では本年度の『同窓会理事会』を、昨年度と同様に、メール審議で行なわざるを得ないと判断するに至りました。

6月1日同窓会HP上に「6月25日（土）同窓会総会および市民公開講演会中止のお知らせ」を

掲載いたしました（<https://www.mhoken.jp/topics/2022/05/30/1653869917402.html>）。

総会時にご協議いただくべき審議事項については、5月25日（水）に開催された「Zoom 幹事会」で練り上げた議案書を、同窓会理事会の「メール審議」にて諮りました。その結果、提示した全ての議案に対して、理事全員からの承諾を得ました。これをもって同窓会総会の議決といたしました。

令和3年度事業報告

1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助

- 1) 学生図書購入
- 2) 学術国際交流推進
(シンガポールのシンガポール総合病院、ネパールのスタディツアーの海外研修プログラム、夏期海外プログラム学生受け入れへの支援)新型コロナウイルスの影響により中止
- 3) 特別講演の開催
 - ・令和3年度 保健学科・同窓会特別講演
期 日：新型コロナウイルス感染対策のため、従来の市民公開の講演会は開催せず、学生・教職員を対象としてオンライン配信を行った
令和3年6月26日(土)
当日は311講義室からホスト配信
講 師：鈴木 信行先生
(精神保健福祉士・社会福祉士)
テーマ：「がんの当事者から学ぶ <次世代医療> に向けやるべきこと」
- 4) 実習指導者連絡協議会開催補助(オンライン開催のため補助はなし)
- 5) 卒業式・学位記授与式
 - ・祝賀会補助(新型コロナウイルス感染予防のため中止)
 - ・卒業記念品の贈呈(集合写真)
 - ・竹内松次郎賞記念楯(優秀学生表彰)
令和3年度は医学部保健学科および大学院医学系/総合医理工学 研究科卒業証書および学位授与式として代表者のみが参加し、保健学科会議室で行われ、Zoomにて配信された。
- 6) 入試広報活動補助
 - ・オープンキャンパス補助(Zoomによるオンライン配信、保健学科HP内オープンキャンパスサイトにおいてオンデマンド動画)
 - ・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
- 7) 学生課外活動支援
 - ・新入生合宿研修補助(新型コロナウイルス感染症の影響により中止となり、専攻ごとのイベントに補助)
 - ・学生への課外活動支援
- 8) 学習環境整備
 - ・学生支援
看護学専攻 マニュアルストレッチャー(アズワン・CNO-02N)、ハイスタンド(サンワサプライ・RAC-317NK)、ナーシングアン一式(レールダルメディカルジャパン・325-05050)、サカモト分娩介助トレーナー Dual(坂本モデルM184)、乳児看護実習モデル(LM-052高研

(株)、Open Move AfterShokz オープンムーブワイヤレス骨伝導ヘッドホンの購入

- 9) 卒業生を迎えての懇談会(隔年開催)

2. 保健学科同窓会分科会支援

- 1) 看護学専攻：アルプス会・桐の木会
- 2) 検査技術科学専攻：臨嶺会
- 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻：州嶺会

3. 保健学科同窓会の運営について

- 1) 同窓会ホームページの運営
- 2) 同窓会だより第19号の発行
- 3) 同窓会総会および役員会の開催
 - ①令和3年度総会の開催
新型コロナウイルス感染症対策のため、理事会のメール審議による書面評決をもって承認とした
 - ②理事会の開催
令和3年6月9日(水)～6月16日(水)の期間でメール審議
 - ③幹事会の開催
令和4年3月11日(金) 17:30～19:00
Zoomによる遠隔会議
令和4年5月25日(水) 17:30から
Zoomによる遠隔会議
- 4) 同窓会事務局の運営
- 5) 信州大学同窓会連合会との連携
信州大学同窓会連合会関係：
 - ・令和3年7月17日(土) 第34回信州大学同窓会連合会役員会(於旭会館3階大会議室)(川上会長)
 - ・令和4年3月17日(木)「第35回信州大学同窓会連合会役員会」(川上会長)信州大学校友会関係：
 - ・令和3年6月24日(木)～7月30日(金)「第7回信州大学サポーターズクラブ理事会(メール審議)」(川上会長)
- 6) 信州医学振興会支援
- 7) 特別会員の最終講義へのお祝い
「市川元基教授」

令和4年度事業計画

1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助

- 1) 学生図書購入
- 2) 学術国際交流推進（シンガポールのシンガポール総合病院、ネパールスタディツアーのプログラムについては中止、招聘講演、夏期海外研修受け入れへの支援）
- 3) 特別講演の開催
開催方法はOn Lineでのライブ配信とし、無料で市民公開として視聴可能とする（ホームページでの登録制）。
日時:6月25日(土)13:00～15:00
演題:「悲しみとともにどう生きるか」
講師:入江杏さん(犯罪被害者の家族の方)
- 4) 実習指導者連絡協議会開催補助
- 5) 卒業式・学位記授与式
・祝賀会補助
・卒業記念品の贈呈(集合写真)
・竹内松次郎賞記念楯(優秀学生表彰)
- 6) 入試広報活動補助
・オープンキャンパス補助(対面開催の方針)
・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
- 7) 学生課外活動支援
・新入生合宿研修補助
・学生への活動支援
- 8) 学習環境整備
・学生支援:看護学専攻

2. 保健学科同窓会分科会支援

- 1) 看護学専攻:アルプス会・桐の木会
- 2) 検査技術科学専攻:臨嶺会
- 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻:州嶺会

3. 保健学科同窓会の運営について

- 1) 同窓会ホームページの運営
 - 2) 同窓会だより第20号の発行号の発行
 - 3) 同窓会総会および役員会の開催
- ①令和4年度総会
令和4年度の総会は今年度も中止とし、理事会の決定を総会決議とする
- ②理事会の開催
年1回(5～6月)6月上旬に開催し、理事会決定を総会の決議とする
- ③幹事会の開催
- 4) 同窓会事務局の運営
 - 5) 信州大学同窓会連合会との連携
 - 6) 信州医学振興会支援
 - 7) 特別会員最終講義のお祝い

同窓会役員

名誉会長： 池上 俊彦（医学部保健学科）	検査技術科学専攻4名	大学院（後期）1名
会長： 川上 由行（医学部保健学科）	河野 愛未（検査技術科学専攻学生）	黒部 恭史（博士後期課程院生）
副会長： 城井 三奈（医学部附属病院）	赤羽 貴行（安曇野赤十字病院）	幹事： 奥村 伸生（医学部保健学科）
理事：	平 千明（医学部保健学科）	樋口由美子（医学部保健学科）
看護学専攻8名	新井 慎平（医学部保健学科）	中込さと子（医学部保健学科）
関 浩美（医学部附属病院）	理学療法学専攻2名	下里 誠二（医学部保健学科）
松本 恵美（医学部附属病院）	井上 智巴（理学療法学専攻学生）	柳澤 節子（長野県看護協会）
赤池 勝美（医学部附属病院）	杉田 勇（諏訪中央病院）	百瀬 公人（医学部保健学科）
白濱 零（医学部附属病院）	作業療法学専攻2名	横川 吉晴（医学部保健学科）
三輪百合子（長野県看護連盟）	小澤 夏子（作業療法学専攻学生）	務台 均（医学部保健学科）
坂口けさみ（長野保健医療大学）	井戸 芳和（医学部附属病院）	監事： 西澤 公美（医学部保健学科）
松島みなみ（看護学専攻学生）	大学院（前期）1名	鮫島 敦子（医学部保健学科）
武藤 日向（看護学専攻学生）	佐々木友紘（博士前期課程院生）	事務局： 中山 秀子

編・集・後・記

政府の行動制限のない夏が戻ってきました。甲子園での高校野球も開催され、コロナ禍前にできていたことがいくつか戻った印象です。一方、感染流行は第7波を迎え最も罹患者数が増えました。ウイズコロナの生活を進めるとしても、保健医療活動を滞りなく維持するにはまだ工夫が必要かと思います。感染して後遺症がある知り合いは、これまでの生活を送ることが難しく復帰まで時間を必要としています。個別の症状は様々で、回復をはかる手立てを見つけることは容易ではないと感じるこの頃です。（編集人 Y）